

国立教育政策研究所 平成29-令和3年度プロジェクト研究 「学校における教育課程編成の実証的研究」

『『現代的な諸課題』を扱う教科等横断的な単元の開発と実践に関する調査 研究報告書』の概要について

本報告書は、国立教育政策研究所のプロジェクト研究「学校における教育課程編成の実証的研究」（平成29～令和3年度）における研究成果のうち、「現代的な諸課題に対応して求められる資質・能力」の育成を目指す教科等横断的な取組として、単元の開発と実践に関する研究を行った成果をまとめたものである。教科等横断的な取組は「総合的な学習（探究）の時間」などに見られる探究的な課題設定とその解決をはかる場合や、複数の教科がそれぞれの学習活動を充実させて行う場合がある。本研究では、複数の教科がそれぞれの学習活動を充実させるために行う教科等横断的な取組を対象とした。

1. 調査研究の目的・概要

（1）調査研究の目的

本研究の目的は、「現代的な諸課題」を扱う教科等横断的な単元の開発と実践を通して、「現代的な諸課題に対応して求められる資質・能力」に関する知見を得ること、また、教科等横断的な学習をデザインする際の工夫や留意点等に関する知見を得ることである。

（2）調査研究の概要

本研究では、まず、中央教育審議会の答申や学習指導要領において、「現代的な諸課題」に関連する資質・能力や教育内容を整理した。単元の開発と実践においては、国立大学附属中学校2校と公立高等学校2校に協力を得た。各学校の理科と社会科・地理歴史科の実践者（教師）は、本研究で現代的な課題として設定した「プラスチック問題」について、それぞれの教科の立場を生かしつつ、協力して教材研究と授業実践を行った。指導計画については、複数回のワーキンググループの会合を通じて実践者と本プロジェクトの事務局等で検討した。実践報告を基に、理科と社会・地理歴史科による教科横断的な取組における成果と課題を抽出し、それらを論じた。

【研究期間：令和元年度～令和3年度、研究代表者：鈴木敏之（教育課程研究センター長）】

2. 研究成果の概要

（1）理科と社会科・地理歴史科による教科横断的な単元の開発と実践

研究協力校4校において、「プラスチック問題」をテーマとした理科と社会科・地理歴史科による教科横断的な単元の開発と実践を実施した。各研究協力校における単元の開発と実

践の事例は以下のとおりである。

- 事例1 東京学芸大学附属世田谷中学校 第3学年「プラスチックの光と影～海洋プラスチックごみ問題を考える～」
- 事例2 愛媛大学教育学部附属中学校 第1学年「プラスチックから考える～経済と地球環境の豊かさ～」
- 事例3 岡山県立東岡山工業高等学校 第2学年「化学繊維と私たちの暮らし」
- 事例4 愛知県立安城東高等学校 第1学年「プラスチックが変えた20世紀の世界～プラスチックを通してみる現代的諸課題～」

プラスチックから考えよう! 【学習課題】「豊かさ」を維持するために、海洋プラスチック問題に対して、どのような努力が必要になっていくのだろうか?

★ 様々な視点から考えた人の意見を聞いて、自分の考えを広げ、深めよう。 氏名()

視 点	できそうな努力(対策)	それを行うことの利点	それを行うことの欠点
1 先進国	海洋プラ輸出を減らしリサイクル	再利用率で生産量(減) エネルギーを節約	手間がかかる
2 素材・工夫	土や自然にかんよ材料プラスチックをつくる	埋め立て処分の量が減る	化学繊維も使って、人体に影響 手間がかかる。性質が変わる
3 生物環境	河川付近のゴミを減らしていく	海洋へ流れるゴミが減っていく	手間がかかる

★ 四つの視点から考えたことを比べたり、関連させたりした結果、この問題に対してどんな努力が必要だろう?

～グループの考え～ 世界へ還元合して、リサイクル企業などを設ける努力が必要だと思います。今の世界の現状として、経済発展だけを進める国々が増え、経済格差が拡大し、貧困地帯には、ゴミがたまり、海洋に流れ出まっています。なので、世界各国が助け合い、ゴミを処理する費用を出し、リサイクルできるようにする必要があると思います。 の経済発展が早い国

図 開発され実施された生徒用ワークシート (事例2)

(2) 現代的な課題を扱う教科横断的な学習における資質・能力の特徴

本研究では、現代的な課題として設定した「プラスチック問題」を扱う教科横断的な学習で見られた資質・能力の特徴として、次の3点を挙げた。

- ・各教科の枠を越えた多面的・多角的な視点の活用
- ・各教科を学ぶ意義の認識
- ・学習課題を自身と社会の問題として捉える姿勢

「現代的な諸課題」を扱う教科等横断的な学習では、このような特徴を持つ資質・能力の育成が期待される。

(3) 教科等横断的な学習の推進に向けた工夫や留意点

本研究では、実践を通して現代的な課題を扱う教科横断的な学習のデザインの実際を示した。実践者からは、学校全体のカリキュラム、時間割や学習時期の調整、異なる教科の教師間の連携等の困難さ、評価の位置づけや方法等が課題として指摘された。これらの課題に対処し、教科等横断的な学習を推進するためには、今後、以下のような点に留意したり、工夫

を加えたりすることが考えられる。

- ・問題発見の力の育成を目指し、学習単元の導入に複数教科の教師による合同授業を設定
- ・単元全体の問い（本質的な問い）については、多面的・多角的な視点を要求する問いや、二つの教科の学びを活用して追究できるような問いを作成
- ・学校や生徒の実態に合わせた無理のない計画
- ・教科等横断的な学習に適した学習指導の検討
- ・評価の方法・位置付けの明確化
- ・複数教科の教師による連携・協力の場の設定

教科等横断的な学習は、年間指導計画に組み込む形から、一回の授業に組み込む形まで、さまざまな方法があり得る。学校の目標や教師の専門性、そして子供の実態に合わせて、方法や実施の規模を選択することが考えられる。